

自学共育

子どもが主体の学校づくり

栄小中合同通信No.16 2025.11.10

来年度の児童会・生徒会は…?

11月になりました。横倉校舎の工事も着々と進んでいます。

子どもたちも、来年度の学校生活について話し合いが始まりました。

「来年度の児童会・生徒会ってどうなるの?」という声があり、来年度の児童会生徒会をどうするか、小中学生みんなで話し合いました。

この話し合いは、「桐の葉グループ」(縦割り班)で行っています。



第1回 児童会・生徒会、リーダーは何のためにあるの?

- これから話していく内容の説明
- 「児童会・生徒会」は何のためにあるのかな?
- 「リーダー」は何のためにあるのかな?

第2回

どんな話し合いが必要になるかな?

第3回 みんなの考えに近づけるためには?

- みんなの不安を解決するためには?

今までどんなことを
大切にしてきたのかな?

それって本当に児童会・
生徒会がやらないといけない?

1 あいさつ運動	13 書の週間の企画
2 生活目標決め	14 本の貸し借り登録
3 悩み事相談ポスト	15 本の返却呼びかけ
4 ラジオ放送	16 本の整理
5 行間: そうじの放送	17 读書句間企画
6 課生会放送	18 朝の放送
7 にこにこ郵便	19 朝の葉の企画運営
8 給食のあいさつ	20 三年生を送る企画運営
9 給食メニュー紹介	21 サマー・ウィンターカップの企画運営
10 給食クイズ	22 さまいも栽培・交流会
11 実食内グラフ	23 花壇の花のお世話
12 給食週間の企画	これは全部児童会・生徒会がやる必要があるかな?

自分で
がんばる

クラスで
がんばる

委員会で
がんばる

次は、今まで児童会や生徒会で
行ってきた活動は、「本当に委員
会でやるべき?」「もしかしたら
自分でできる?」「クラスででき
そう?」と、一つひとつの活動
を確かめながら、どの場面でで
きそうなことなのかを考えてい
きました。

「悩み相談ポストってどん
な活動?」「サマー・ウィンターカッ
プってなあに?」…今年は児
童会・生徒会それぞれ活動す
る場面もあるため、小学生も中

学生もお互いどんな仕事なのか質問し、確認し合いました。





それぞれの活動が分かると、その活動はどの場面でできることなのかをみんなで考えます。

「これは委員会でみんなでやる活動かな」「いいさつはクラスでもいいのかなあ?」「図書館は?」…意見を言いながら「活動カード」を並べたり、話をまとめ、決まったものを貼ったり、友達にカードを渡したりと、小学生中学生関係なくどんどん分担し合い、それぞれのグループで話し合いが進んでいきました。

最後は、「リーダーについて」。今まで当たり前のように存在していた「生徒会長」「児童会長」は何のためにいるのだろう、生徒会長、児童会長のようなリーダーは必要か？今までの生徒会長児童会長さんの存在や活躍を認め感謝しながら、リーダーの存在について考えました。「リーダーは必要だと思う」「リーダーの他の在り方」・・・この話し合いは時間が来たところでおしまい。続きは今週行います。

「自分ごと」一人ひとりがその子らしく考える姿

今回の話し合いで、子どもたちの姿から考えさせられたことがあります。

それは、話し合いの中で「中学生だからまとめなきゃ、うまく進めるべき」「中学生が意見を出してリードすべき」「小学生は中学生の意見を聞いてそれに従う」「よくわからないから中学生に任せよう」という雰囲気がないということです。わからないことを聞いたり答えたりするだけでなく、まず自分の意見を言って伝えようとする子、友達の意見を聞き、自分の考えをまとめ伝えていく子、意見を静かに聞き入れメモを取る子、うなずいて賛同する子、小学生中学生関係なくその子らしいそれぞれの姿や役割がありました。そして、それはどの姿も「自分ごと」として一人ひとりが考えている姿でした。

グループで考えをまとめる場面では、単純に多数決にするのではなく、みんなで確認し合ってカードを並べたり、「そうかあ、なるほどね。僕もその考えに賛成だ」と自分の考えを広げたり、自分の考えに印をつけて互いの考えと比べたりしていました。「多い方に決定」「中学生の意見は絶対」ではなく「両方の考え方があるね」と、それぞれの意見を模造紙に記入し、話し合いを終えたグループもありました。

どうしてそのような姿が出てくるのだろうと考えたとき、グループ内で「聴く」雰囲気があるからなのかな、と思いました。中学生は、よく小学生の声に耳を傾けて質問や意見を聞いていました。うなずきながら話を聞く姿もありました。どの意見も否定せず、軽く流さず、きちんと受け入れているのです。こうやってしっかり聴いてくれれば、小学生も安心して班の中で意見を言えるのだろうな、と感じました。

その姿は、この話し合いで急に出てきたものではないでしょう。小中合同運動会や音楽会などの行事を一緒に考え行ってきたことのほか、桐の葉グループでの小中合同の遊び、縦割り班の掃除、互いに時間を共にする給食やバスの登下校、廊下で会った時の声掛けなど、同じ校舎で過ごすことでの日常的な関わりから、互いを大切にし対等に関わる関係が自然にできているのだろうと思いました。そしてそれは栄小学校・中学校のよさでありこれからも大事にしたい強みなのだと思います。

まだまだ子どもたちの話し合いは続きます。子どもたちのこの姿を大切に、次の話し合いでどんな意見が出たりどんな姿が見られたりするのか楽しみにしながら、子どもたちの話し合いを見守り支えていきたいと思っています。

【文責:神田 由美子】